

平成 24 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書（北海道地区）

地区名	北海道地区
事業名	学生協働活性化のためのシーズ開発
事業目的・趣旨	北海道地区では平成 23 年度から所属学生との協働を通じ、大学図書館の学習支援機能の強化を目的とした手法開発を行うため、地区各 大学において独自の学生協働企画を立案し、実験的試行を行った。 なお、本事業の遂行にあたっては、地区の若手・中堅職員で構成されたワーキンググループ体制で管理進行を行ったが、担当職員の 交流・研鑽の機会提供を目的として、「WG 着手報告会」「WG 実施報告会」を併せて実施した。
実施内容	【実施スケジュール】 平成 23 年 10 月 地区各大学における企画検討 12 月 企画とりまとめ 平成 24 年 1 月 地区助成への申請 5 月 WG 着手報告会 11 月 WG 実施報告会 最終報告（国立大学図書館協会北海道地区協会部課室長会議） 地区各大学における企画内容については、別紙一覧のとおり。 なお、WG 着手報告会、実施報告会の実施内容は下記のとおりである。 【WG 着手報告会】 日時：平成 24 年 5 月 16 日（水） 場所：北海道大学附属図書館大会議室 A プログラム： 15:00～15:05 開会挨拶 15:05～15:10 地区協会助成事業の経過報告等 15:10～16:30 各大学からの着手報告、質疑応答 16:30～16:55 今後の予定報告、意見交換 17:00 閉会 【WG 実施報告会（北海道大学附属図書館講演会と併せて開催）】 日時：平成 24 年 11 月 16 日（金） 時間：講演会 13:30～14:50 実施報告会 15:00～17:00 場所：北海道大学文系共同講義棟 1 階 6 番教室 後援：北海道地区大学図書館協議会 プログラム： 15:00～15:05 地区協会助成事業の概略説明 15:05～17:00 各大学からの事業実施報告、質疑応答 17:00 閉会 ※ WG 実施報告会には道内各国公私立大学から参加者を募集し、各大学の図書館職員を中心に 70 名（WG メンバー含む）の参加があった。
事業の成果 （アンケート調査）	企画実施に関する意見・感想が地区各館から以下のとおり寄せられており、実施による成果は大きなものがあったといえる。成果を確実にするに

結果，事業への意見・感想等)	は，同様の企画の継続した実施が必要となるが，継続実施を既に決定している館もあり，各館における今後の活動に繋がっていくものと思われる。 【事業実施に対する各館の意見・感想】 ○学生の視点に立った広報活動や学生の行動様式を学ぶことができた。(北海道大学) ○学生対象のイベント開催において，学生サポーターの発想の豊さや実行力に大いに助けられた。(北海道教育大学) ○学生目線の企画展示を行うことができ，展示した図書の殆どが貸出中になり大成功であった。(室蘭工業大学) ○新たな仕組みを一から構築した今回の経験は，当館職員にとって 今後の図書館運営の糧となる貴重な経験となった。(小樽商科大学) ○長年の課題であった学生との協働作業への足がかりを得ることができた。(帯広畜産大学) ○作業してくれた学生のレビューの内容から，患者や医療に関する 意識の変化・向上等を読み取ることができた。(旭川医科大学) ○懇談会での要望及びアンケートによる調査結果を踏まえ，事業を 継続して実施することとなった。(北見工業大学) WG 実施報告会開催後，参加者に対してアンケートを行ったが，参加者43名から回答があり，地区各大学の実施報告に対して回答者の2/3以上から「とても良かった」「良かった」との回答があり，また，下記のような意見・感想が数多く寄せられた。 ○小規模大学図書館ならではの効果的な取り組み例が参考になった。 ○各大学での多様な取り組みが刺激になった。 ○クラスライブラリアン制度は特に興味深かった。 ○企画に学生を参加させる取組は参考にしたい。 ○学生のアイデアがユニークであり，参考にしたい事例があった。
経費	執行額： 297,000 円 内 訳： 謝金 138,000 円 消耗品費 159,000 円

地区各館の企画内容一覧

No.1

大学名	企画名	目的・趣旨	実施内容
北海道大学	学生が学生に勧める学部選択のための参考となる図書の紹介・書評	総合入試により学部選択をすることになった1年生のために、上級生から、その参考となる図書の紹介・書評をしてもらう。	H24. 1～ 本学学務部及び本学の総合入試に係る進路、就学指導や学習支援を行うアカデミックサポートセンターと打合せを実施した。 H24. 2～ 本学の学生で構成されるピアサポーターが学生の就学支援等を行う「ピアサポート室」と協働して事業の広報活動等を行った。 H24. 4～ 図書の紹介・書評をしてもらう学生（以下、紹介学生という）の募集を行い、14名の参加があった。紹介学生は図書の書評・学部紹介の展示ポスターを作成した。 H24. 9～ 9月24日～28日にかけて、北図書館に隣接するピアサポート室を会場としてポスター展示を行った。紹介学生は、来場した学生に対してポスター・セッション形式で書評・学部紹介を行った。 企画実施後10月末まで、ポスターをピアサポート室の前に展示した。 H25. 1～ 現在の学部1年生の学部選択の参考となるように、また新1年生も参考にできるよう、1月から4月末まで、ポスターを北図書館1階ロビーに展示
北海道教育大学	図書館学生サポーターとの協働による図書館活性化プロジェクトと学習支援企画	従来より実施していた図書館活性化プロジェクトにおける企画・広報・運営活動について図書館学生サポーターと協働することにより、同プロジェクトをより活気のある、学生が参加しやすいものにする。	1. 所蔵図書の展示（「レポート作成の基礎」「論文・レポートお助け本」をテーマに図書展示およびレポート作成ガイドの作成） 2. ビブリオバトル（各キャンパスで1～4回開催、全学共同で1回開催） 3. 選書ツアー・学生選書委員会による選書活動および図書展示 4. ブックカフェ「かずを見つけよう」（企画・広報・当日運営を担当） 5. オープンキャンパスにおける図書館紹介および図書展示 6. 図書館ブログ（教員へのインタビュー、記事執筆） 7. 読書会（担当講師との打ち合わせ、レジメ作成、司会を担当） 8. フリーペーパーの発行（学生の発案により「ボラリス」を創刊）
室蘭工業大学	柔軟性のある持続的な学生と協働した読書推進活動の試行	従来学生の読書推進活動については、図書館が主体となり、教員から推薦文を募集し、それを広報するという形を主流としてきた。ただし、このような方法は業務にかかる負担も大きく、また企画も硬直しがちであった。そこで学生を主体とした企画とすることにより、より柔軟性のある持続的な読書推進活動を行える体制の構築を試みる。	本学で活動している学生を主体とした読書や図書に関係する団体（「ビブリオバトル室蘭」及び「室蘭工業大学読書推進プロジェクト」）と協力し、学生目線の魅力的な企画展示等を実施し、読書推進活動、学習支援活動をすすめる。また、各団体の自主性を尊重、対等の関係を構築し、息の長い持続的な学生との協働を目指す。
小樽商科大学	クラスライブラリアン制度の試行	学生と図書館職員が気軽に交流できる接点を設けることにより、両者の間にパーソナルな信頼関係を構築する。そこから図書館への関心喚起を促すとともに、学生協働の下地を作る。	2011. 11 Facebookアカウント登録 2011. 11 Facebookページの立ち上げ 2012. 1 Facebookページ広報活動（垂れ幕・ポスター等） 2012. 4 クラスライブラリアン制度導入 2012. 4 第1回Facebook講習会を開催（25名参加） 2012. 10 卒論見学会を開催（計10回 60名参加）

地区各館の企画内容一覧

No.2

大学名	企画名	目的・趣旨	実施内容
帯広畜産大学	「学生読書推進プロジェクト」及び「図書館ミニミニガイドランス」における学生との連携	平成22年度に発足・活動中の「学生読書推進プロジェクト」及び、平成23年度より企画立案中の「図書館ミニミニガイドランス」において学生との連携をはかり、本学『図書館の理念』に沿った学生支援を実現する。	1. 「学生読書推進プロジェクト」においての活動 （各活動の企画/作業/参加を学生に依頼） ○ 読書会の開催(3回) ○ 北海道文学館の「出前講座」事業（講師：絵本作家 手島圭三郎氏） ○ ブックハンティング購入資料の展示作業 2. 「図書館ミニミニガイドランス」における学生との連携 （講習会の講師補助を学生に依頼） ○ 平成23年12月13日『本つくりの初歩-文庫本にハードカバーをつける』 ○ 平成24年5月15日『本つくりの初歩-和装本（四つ目綴じ）を仕立てる』 ○ 平成25年3月（製本ワークショップを企画中）
旭川医科大学	闘病記コーナー新設準備に関する学生との協働	闘病記コーナーの設置は、将来の医師・看護師である学生に対して患者の心情を理解する貴重な教育資料として闘病記を揃え、利用しやすい分類を付した上で供しようというものである。この分類および広報を学生と協働して行い、闘病記コーナー認知度の向上と資料の利用促進を図る。	1. 闘病記の分類・レビュー作業 ○ 本学独自の分類を作成 ○ 平成24年1月と9月の2回にわたり協力学生を募集。 ○ 協力学生が5冊の分類とそのうち2冊へのレビュー記入を実施。 ○ 結果、44名により395冊の分類が終了。 ○ 分類付け結果を資料の装備・配架に反映（検討中） ○ レビューをまとめた小冊子を作成し配付する予定（本学予算） 2. 講演会の開催 ○ 平成24年2月2日「患者の「語り」を知るために～闘病記を読むということ」開催（40名参加） ○ 平成24年4月25日「患者の「痛み」をわかるために～がん看護と闘病記」開催（35名参加） 3. 今後の展開 ○ 分類付けのデータベース化（予算が得られ次第）
北見工業大学	KIT Library 学生協働プロジェクト “コラボS-Lib”	学生との協働により、図書館の意義、新しい活用等についてアイデアを出し合い、大学図書館の機能強化を図る。具体的に以下の事業を実施する。 1) 館長と各学科等から選出された学生で、図書館利用の問題点や要望等について懇談し、今後の図書館運営及びサービスの向上に反映させる。 2) 自ら選書することの意味を通して、学生の図書館利用及び図書に対する興味を向上させる。	1. 図書館長と学生の懇談会を開催 ○ 平成24年2月1日（水）17:00～18:30 ○ 学部学生5名、大学院生2名、館長、図書館職員6名 計14名 2. 学生選書ツアー ○ 第1回目 平成24年6月8日（金） 10名参加（57冊選書） ○ 第2回目 平成24年7月5日（木） 10名参加（65冊選書） ○ 市内書店にて一人当たりの予算額に応じて選書（本学予算） ○ 特設コーナーに展示（選書した理由を提示） 3. 参加学生を対象にアンケート調査を実施 29名から回答があり、調査結果をとりまとめた。